

《風景／富岳と山村》（部分）1962年頃

宮本三郎と「日本」 Miyamoto Saburo: Exploring Japanese Identity

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館 Miyamoto Saburo Memorial Museum

- 展覧会名 宮本三郎と「日本」
会期 2022年10月1日[土]～2023年3月12日[日]
会場 世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館 Miyamoto Saburo Memorial Museum
〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 5-38-13 TEL:03-5483-3836 www.miyamotosaburo-annex.jp
主催 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷美術館
開館時間 10時～18時（最終入館は17時30分まで）
休館日 毎週月曜日（ただし、10月10日[月・祝]、1月9日[月・祝]は開館、10月11日[火]、
1月10日[火]は休館）
観覧料 一般200円(160円)、大高生150円(120円)、65歳以上・中小生100円(80円)、障害者100円(80円)
ただし小・中・高・大学生の障害者は無料、介助者（当該障害者1名につき1名）は無料
※（ ）内は20名以上の団体料金
※世田谷区内在住・在学の小・中学生は土、日、祝・休日は無料

◆ 宮本三郎と「日本」

宮本三郎（1905-1974）は、洋画家として主に西洋美術を参照しつつも、日本の芸術家としてのアイデンティティと、そのあるべき姿を強く意識して制作を重ねました。

1938年に初めて渡欧し、開戦により帰国を余儀なくされるまで1年余りをパリに過ごし、ヨーロッパの各都市を訪ねた宮本は、そこで西洋の芸術の歴史の深さを目の当たりにします。それは「すっかりふさぎ込んでしまって何も描けなく」なるほどの経験でした（『アトリエ』第261号、1948年9月）。やがて自国の伝統と向き合うことなくして真に創作することはできないと考え、それでも西洋由来の油絵具による自らの絵画世界を確立しようと絵筆を握る宮本が次に取り組むこととなったのは、従軍画家としての仕事でした。作戦記録画の制作にあたり、宮本は西洋美術史の文脈における歴史画の劇的な構図等を巧みに応用します。敵対国とされた国々の文化をもって成しえるその逆説的な成功は、どのような思いを画家にもたらしたのでしょうか。

戦後、2度目の渡欧を果たした後も、宮本は奈良の寺社を巡るなどして、日本や東洋の文明を西洋のそれと比較しつつ、自らのなかに再解釈し位置づけることを試みています。古来の文化のみならず、その眼はやがて、1960年代の高度経済成長期に変貌を遂げる東京という都市の熱気にも向けられるのでした。

洋画家・宮本三郎が、どのようにして自らの内と外にある「日本」と向き合ったか——画題や技法の選択からその芸術観まで、さまざまな視点から、その作品世界のなかに浮かび上がる「日本」を探ります。

◆ 各画像は広報用として提供しております。ご希望の際は広報担当までお問合せください。 ※（ ）は題不詳につき仮題



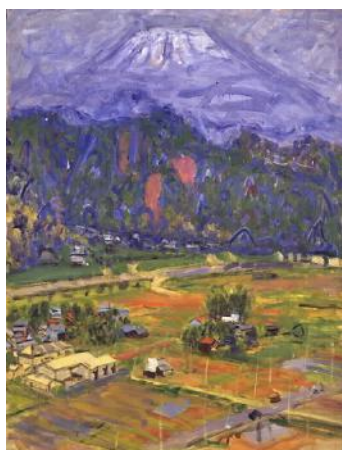
《（踊り子）》1962-64年頃



《蚊帳》1939年



《上野夜景》1964年



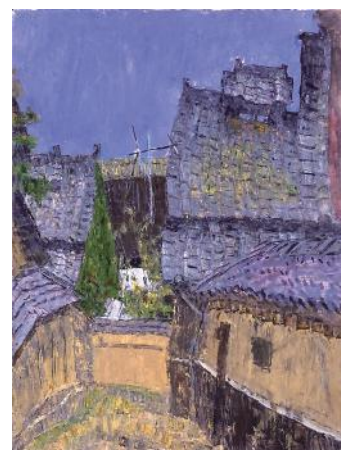
《風景／富岳と山村》1962年頃



《唐招提寺》1959年頃



《（少女和服）》制作年不詳



《（百毫寺村）》1959年頃

◆ 宮本三郎記念美術館

◆ 宮本三郎（みやもと・さぶろう）について

1905年5月23日に現在の石川県小松市松崎町に生まれ、1935年7月より世田谷区奥沢にアトリエを構えた、昭和を代表する世田谷区ゆかりの洋画家です。

川端画学校で富永勝重、藤島武二、また個人的には安井曾太郎に指導を受け、戦前は二科展を中心に発表を行いながら、雑誌の挿絵や表紙絵の制作でも活躍。戦時中は従軍画家として藤田嗣治、小磯良平らとともにマレー半島、タイ、シンガポールなどに渡り《山下、パーシバル両司令官会見図》(1942年)をはじめ、数々の作戦記録画を制作しました。戦後は、熊谷守一、田村孝之介らと第二紀会を設立。生来の素描力を土台に、さまざまに画風を変えながらも、人物を主たるテーマとして制作、晩年は花と裸婦を主題にした豪華絢爛な絵画世界を構築します。1974年10月13日、腸閉塞による心臓衰弱のため、69歳で他界。



撮影 藤原正 撮影年不詳

◆ 講演会やワークショップ、コンサートなどの開催について

イベントの開催につきましては、当館ホームページでお知らせいたします。

[参考] 過去の活動



ニューイヤー・コンサート
アコルディ弦楽四重奏団
(2019年1月27日開催)



人ひろばvol.44
「奥沢・玉川の地域の歴史再発見！第2弾」
(2019年9月8日開催)



サマー・ワークショップ2022
「つくってみよう じぶん色の油えのぐ」
(2022年8月12日～14日開催)

◆ ご来館の際のお願い

※新型コロナウイルス感染症の感染予防および拡散抑制のため、ご入館に際し、マスクの着用と検温等のご協力をお願いしております。

※展覧会の会期および内容が、急遽変更や中止になる場合がございます。

※会期中の最新情報は美術館ウェブサイト等でお知らせします。

◆ 交通案内

東急東横線・大井町線「自由が丘」駅下車／徒歩7分

東急大井町線「九品仏」駅下車／徒歩8分

東急目黒線「奥沢」駅下車／徒歩8分

東急バス(渋11) 渋谷駅～田園調布駅「奥沢六丁目」下車／徒歩1分

東急バス(園01) 千歳船橋～田園調布駅「浄水場前」下車／徒歩10分

※当館の来館者用駐車場は、車椅子の方用スペース1台分のみとなります

◆ お問い合わせ先

宮本三郎記念美術館(広報担当)

Email: miyamoto.annex@samuseum.gr.jp

TEL: 03-5483-3836 FAX: 03-3722-5181

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13

※当館には展覧会担当の学芸員は常駐していません。
ご質問等は上記広報担当までお願いいたします。

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館